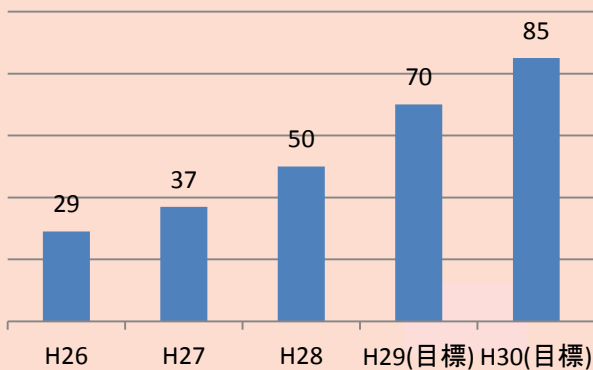


- 地域資源を活用した「儲かる農業」の展開や新産業を創出する「農業・農村の6次産業化」の事例が増え、農業者の関心が高まっている。
- 関心がある農業者、組織の6次産業化の計画づくり・実現を地域普及センターと中央普及センター(革新支援センター)が連携して支援。
- 事業計画の樹立・商品開発から事業拡大や販路拡大のためのマッチング機会の創出等成長段階に応じた支援、**六次産業化法に基づく事業者認定の支援**等を関係機関と連携しながら実施したことで、6次産業化に新たに取り組む農家が増えてきている。

具体的な成果

- 1 「**自らの6次産業化計画**」を作成する経営体数
六次産業化法に基づく総合化事業計画、ファンドや資金、創業補助金等を利用した6次化事業計画を「**自らの6次産業化計画**」として、その作成を支援。

H30年度目標 85経営体

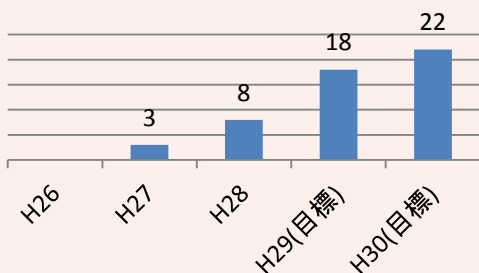


- 2 「**自らの6次産業化計画**」による**経営の実践およびグレードアップ**を実現する経営体数

計画に取り組みその目標の実現させ、計画の改善やさらなる発展を支援



H30年度目標
22経営体



普及指導員の活動

- **6次産業化を希望、または6次産業化に取り組む経営体のステップアップを目的とした研修会を開催**

マーケティングや食品衛生、労務管理など様々なテーマで、研修会、ワークショップを企画開催



- **個別支援による、経営体の意識・レベルに応じた6次産業化支援**

必要に応じて、加工等の専門家やアドバイザー等の協力を得て、個々の経営体の支援活動を実施

6次産業化計画の具体化
作成した計画の実践・実現の支援
計画の改善・発展 など

普及指導員だからできたこと

- 農産物生産、流通加工、経営管理等、**経営体の支援に必要な分野担当者のチーム体制で6次産業化支援**にあたっている。
- 県庁フードイノベーション課、三重県工業研究所、(公財)三重県農林水産支援センター、三重県産業支援センター等、様々なネットワークを駆使し、専門知識を持つ講師を探し出し、経営体への紹介・派遣や知識・情報の交換を行っている。

農業農村の6次産業化推進

活動期間：平成23～30年度

1. 取組の背景

三重県では、「三重県食を担う農業及び農村の活性化に関する基本計画」を策定し、農業及び農村の活性化に関する施策を総合的かつ計画的に推進しています。

農業および農村をめぐる情勢が変化する中、国内外の需要を積極的に取り込み、新分野の開拓など、新たな可能性への積極的なチャレンジを応援することを通じて「もうかる農業」につなげていくことが重要です。

普及事業では、従来から取り組んできた農産物利活用、女性の起業推進を基に6次産業化をすすめる、担い手の育成・経営発展を目標に取り組んでいます。

2. 活動内容（詳細）

経営やマーケティング、食品加工など様々な研修会を開催するなかで、6次化に関心を持つようになった経営体に対し、6次産業化計画の作成へと促し、支援していきます。

(1) 6次産業化計画の作成支援

経営体自らが、将来の経営方針、6次産業化について明確な目標を持ち、その実現に向けて取り組む活動や事業の計画作成を支援します。

6次産業化について、志向・意欲はあるが具体化できない、関心はあるが取り組むきっかけがない、「自分には無理」と考える農業者・経営体に対して、目標の具体化、課題の明確化、必要な取組・行動スケジュールの確認などをおこない、実現に向けた計画づくりを、個別支援します。

(2) 6次産業化の実践支援

計画の実践・実現に向けて現場での支援をおこなっています。加工品の試作や販売取組を実際にすすめながら、改善や新たなアイデアの導入などをおこなっています。専門家の視点や高度な知識が必要になることも多く、6次産業化サポートセンターのプランナーなどの助言も得て活動をおこなっています。

(3) 実際の活動での工夫

- 調査研究活動および支援人材育成講座の企画実施を活用し、望ましい支援者像と普及指導員の役割を明確にしています。
- SCや農業大学校との連携による研修会や講座・インターンシップを充実させ、目標達成に取り組んでいます。
- 販路開拓に力を入れ、必要な知識を学ぶミニ学習会を積極的に開催し、各担当がそれを業務に活かすようにしています。



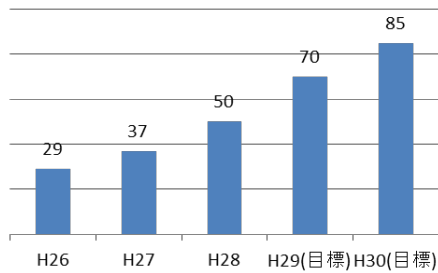
支援人材育成講座



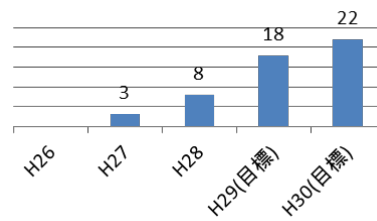
SC との連携による講習会

3. 具体的な成果

自らの6次産業化事業計画作成する経営体数は50（H28）、自らの6次産業化事業計画に基づいた経営のグレードアップ数は5（H28）となっています。



6次産業化計画作成経営体数



経営グレードアップ数

4. 農家等からの評価・コメント

私たちだけでは6次産業化の取組をできなかったが、県にだいぶ後押ししてもらった。知識のない部分を、プランナー、普及みんな力を貸してもらっているおかげと感じている。（伊賀市 百姓工房代表）

6次産業化に取り組む事業者もレベルが多段階あることから、対象農業者のステージ分けをして目標を設定していること、多様な関係者と連携して支援している点は非常に評価できる。（外部評価委員コメントから）

5. 普及指導員のコメント

6次産業化は、ゴールではない。経営や地域がどうなるかという最終目標に向けて、息長く続く6次産業化を考えて支援しています。

中央農業改良普及センター 革新支援専門員

6. 現状・今後の展開等

これまで、農業士や女性グループなど、多くのトップランナーの方とパートナーの関係を築いてきたことが、普及の強みです。

6次産業化は個別支援が中心になるが、このパートナーシップ、組織力を生かして、活動を広げていきたいです。